信濃教育会研究発表会（オンライン①）

令和６年６月２０日

佐伯胖所長　開会の挨拶

よろしくお願いします。

私の話はちょっと補足みたいなことですが、本日、皆さんのお手元に紀要があるかと思うんですが、紀要第 29 巻の 「刊行に寄せて」というところに、「子どもの訴えを聞くこと」という話が出てます。なかなかわかりにくいところもあるんですけども、その子どもが一体何を 思ってるんだろうかという子どもの気持ちを、わかりたい。教師は子どもが今どういう気持ちでいるか、どんなこと考えてるんだろうかということに注意を向けるわけですが、その時に、「訴えを聞く」っていう思いで子どもと関わるということは、子どもが今何をしたいかとか、 どうありたいかとか、あれが欲しいとか、こうなってほしいとかって具体的に欲求として現れていること、 それももちろん、聞き遂げることは大事なことなんですが、あれはやりたいとか、これが欲しいとかという具体的な求めている 内容が、具体的にはっきりと見えてるもの を欲しがってるという風に捉えることは、子どもの思いというものを知ることだという風に研究員の方には言ってるんです。子どもの思いを知るというか、 子どもの思いがなんだろうかって言ったら、それは、子どもが今何を欲しがってるのか、どうあってほしいのかという具体的な欲求として 出ていることです。それで、もちろんそれは大事なんですが、しかし、欲求として出ていることの中には、 逸脱するようなこと、つまり自分は外で遊びたいんだとか、 あるいは、なんか隣の子にちょっかいを入れたいなとか、どっちかっていうと「望ましくないこと」も含めて、その時、子どもがやりたがってることはなんだろうか、欲しがってることはなんだろうかということを、そのまま一応読み取る。

これは、私は「子どもの思いを読み取る」という言い方をするんです。しかし、そう言いながら、子ども自身が本当に 「良くなりたい、なんか本当に自分の生き方として、良い生き方をしたい」とか、「なんかやっぱり自分がもうちょっと本当にいい人間になりたい」ということを実は願っているわけです。

ただ、その願いは、本人もあまり こう意識に上ってきてないかもしれないです。意識に登ってるというのは、あれをやりたいとか、こんなことやりたいとかって、いろんなことがふいふいと頭の中に浮かんでくること。これは、その子の思いは色々とその場その場で出てくるわけです。

でも、その背後では良くなりたいとか、よく生きたいというのは、 自分自身のありようという、自分自身というのがどういう人間であるのかっていう、自分自身の人間としてのありようを求めてるわけなんです。

それで、これは、必ずしもはっきりと自覚されてるとは限らないんです。

だから、いろんなことを、向こうの人が嫌がるようなことを盛んにやったりしているのは、 奥の方ではですね、「自分をもっと見てほしい、自分という人間を認めてほしい」というそういっ

た自分自身の、全人間というか、「人間としての自分」をどうであるかっていうことに関する 願い、よくありたいという願い、こういう 2 種類の実現したいことがあるということを私は言ってるわけです。その願い、つまりどうでありたいかっていうのは、 具体的なあれこれということではなくて、どのような人間としてありたいかということなので、それは、 自分が無視されたり、あるいは人間として扱ってもらったりされていないという時に、なんとか自分という人間を認めてもらいたいというようなことなんです。 それで、人間はみんなどこかで本当に良くありたい、みんなと一緒にちゃんと 良い人間としてこの世の中、この社会の中で生きていきたいという、そういう願いはみんなあるんですが、必ずしもそれはわからないで、それは、私たちが、「あなたにはそういう、何かわからないけど本当の 願い、よくありたいという願いがあるんじゃないでしょうか」という思いで関わる。私はそれを「二人称的な関わり」と言うんです。 本人の身になってみて、そのあなたが本当によく生きたいという願いはどういうことなんですかねという風に、そういう風に見て、よくそういうことが見えてくると、 本当はこうでありたいんだなっていうこともわかる。あるいは、子どもが何か いろんなところで、いろんなものを作ったりなんかしてるということがあるわけです。それで、そういうものを作ったりしてる時に、そういうことでなんかみんなが喜んでくれるようなことをしたい、みんながそれでなんか 嬉しくなるようなことに貢献したいなんてことが背後にあるわけです。その背後にあるそういう、みんなに何か こう大事なことを貢献したいなというような、それを私は願いという言葉で言うんです。

それは、私の恩師の村井実先生がこうおっしゃる「人はみんなどこかでよく生きたい、 良い人間として生きたいという思いがあるんだ」と。それで、そういったことを大事にしましょうというところで出てくるのが 訴えなんです。ですから、訴えというのは、その人の人間としての、丸ごとの人間としての叫びであるんです。

そういったことを感じ取るように、私たちは子どもと関わっていくということを私は常に申し上げているわけです。

今日の研究発表会は、多分そういう子どもたちの思いだけじゃなくて、願いの方を聞き遂げようとする 先生方のそれこそ願いですね、そういったことがかいまみられる報告になってると思います。

本日はよろしくお願いします。